

学校教育目標

「主体性をもち
夢や希望と思いやりの心に
満ちあふれた生徒の育成」



希 望 坂(北中だより)

第6号 令和8年10月9日

みやき町立北茂安中学校

校長 原田 浩臣

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>

神埼・三養基地区 中学校総合体育大会駅伝競技が開催されました

～10月1日(木)に三養基・神埼地区中体連駅伝競走大会が開催され、男子が県大会出場を決めました！～

男子は13チーム中Aチームが1位、Bチームが5位、Cチームが8位、女子は9チーム中3位でした。今大会から県大会の出場権の規定が変更になり女子は県大会出場を惜しくも逃しましたが、男子は見事、優勝で県大会出場を勝ち取りました。また、男子の選手4人が区間賞を獲得する走りを見せてくれました。生徒たちは記録もですが、それ以上に、素晴らしい体験ができたと思います。そして、本校の歴史に3連覇という確かな足跡を残してくれた選手たちに、感謝したいと思います。10月にしては30度近くになる厳しい条件の中、長い距離を走ることは、きつくつらいものです。相手と戦う以上に自分とも戦わなくてはならない過酷な競技だと思います。それをいとわず自ら進んで参加し、チャレンジした生徒たちは北茂安中の誇りです。また、暑い日差しの中で、最初から最後まで応援を続けてくれた本校の生徒に感動しました。本当にありがとうございます。

強い日差しの中、保護者の方も応援に来ていただきありがとうございました。県大会は、11/6(金)福富町のふくどみマイランド公園周辺コースにて行われます。応援宜しくお願い致します！



生徒の活躍を紹介します

～素晴らしい活躍でした～ おめでとうございます！

【9月19日 三瀬旗少年剣道大会 中学生男子の部】 団体	準優勝 剣道部 渡辺 美礼、古賀 陽翔、平川 陽大 最所 響雅、吉次 陸、石井 来我
【9月23日 佐賀県サッカーフェスティバル2026 ジュニアユース8人制サッカー大会 Cパート】	優 勝 サッカー部
【9月27日 中山杯争奪剣道大会 男子中学生】 団 体 優秀選手賞	優 勝 剣道部 江崎 匠
【10月1日 三養基神埼地区中学校駅伝競技大会】 男 子 (北茂安A)	優 勝(県大会出場)記録 1,03,20(18キロ) 金澤琉人、永沼奏斗、下西叶藍、 益田隼希、緒方璃久、榎谷啓仁
 女 子	第三位 記録 0,54,45(12キロ) 川崎芽依、板谷玲奈、宮原里奈 岩元千奈、坂井結芽
区 間 賞	男子2区 永沼 奏斗 記録 10,24(3キロ) 男子4区 益田 隼希 記録 10,55(3キロ) 男子5区 緒方 璃久 記録 10,49(3キロ) 男子6区 榎谷 啓仁 記録 10,32(3キロ)
【9月21日 かささぎ杯ジュニア新体操競技会】 男子団体	第一位 伊藤 怜生(神埼ジュニア新体操クラブ)
〃	第四位 宮崎 歩陸(神埼RG)

全校集会で非認知能力の話をしました

今なぜ「非認知能力」が注目されるのか？その意味とAI時代にこそ必要なもの

今、子育てや教育の情報に触れる中で、「非認知能力」という言葉を頻りに耳にします。育児雑誌や教育ニュース、保護者同士の会話にも登場し、「これからの時代は非認知能力が大切らしい」という認識は多くの方に広まっています。しかし、その一方で「非認知能力とは何か」「学力とはどう違うのか」「なぜそこまで注目されているのか」といった疑問を持つ方も少なくありません。そこで今日はこの非認知能力の大切さを説明していきたいと思います。代表的な15の非認知能力は

～自分をコントロールする力～

- ① 忍耐力（困難でも粘り強く続ける力）
- ② 自制心（衝動を抑え、先を見て行動を調整する力）
- ③ 責任感（自分の行動に責任を持つ力）
- ④ 勤勉性（計画的に物事を進める力）

～他者と関わる力～

- ⑩ 共感性（相手の気持ちを理解し寄り添う力）
- ⑪ 協調性（他者と協力して物事を進める力）
- ⑫ 社交性（社会の一員として関わり、人とつながることを楽しむ力）
- ⑬ リーダーシップ（他者を導き、まとめる力）

～自分を成長させる力～

- ⑤ 好奇心（新しいことを「もっと知りたい！」という内側からの動機）
- ⑥ 創造性（新しいアイデアを生み出す力。0→1を生み出す力）
- ⑦ 楽観性（前向きに物事を捉える力）
- ⑧ 寛容性（柔軟性）（1つの正解に固執せず、状況に応じて考えを変えられる力。多様な価値観を受け入れる力）
- ⑨ 自己効力感（自信）（「自分が行動すれば状況を変えられる／できるはずだ」と信じる力）

～心の健康に関わる力～

- ⑭ ストレス耐性（プレッシャーに負けずに行動する力）
- ⑮ 情動調整（感情を適切に扱う力）

非認知能力は、学力が伸びるだけでなく、将来の収入、健康、人間関係、幸福度などと深く関係しています。特にAI時代では、知識の記憶や計算はAIが得意になるため、人間にはAIが苦手とする創造性や共感性、協働性、主体性などの非認知能力がより求められるようになります。つまり、「生きる力」そのものと言える領域です。非認知能力を育てる方法は、特別な授業や教材よりも「日常の関わり方」が圧倒的に効果的といわれています。そのために学校や家庭でできることは以下の内容です。

1. 安心感の土台をつくる（自己肯定感）

非認知能力のすべての基盤は

「自分は大切にされている」という感覚です。

- ・共感的な声かけ - 「そう感じたんだね」
 - ・プロセスをほめる - 結果ではなく努力・工夫を評価
 - ・失敗を否定しない - 「失敗は成長の途中」と伝える
- これにより、挑戦する勇氣（主体性・自信）が育ちます。

3. 振り返りの習慣をつくる（自制心・メタ認知）

振り返りは「自分で考える力」を育てる最強の方法です。

- ・今日のよかったことを聞く
- ・どうしてうまくいったと思う？
- ・次はどうしたい？

これにより、計画性・自制心・問題解決力が伸びます。

2. 挑戦できる環境をつくる（主体性・やり抜く力）

子どもは「自分で選んだこと」なら驚くほど粘り強くなります。

- ・選択肢を渡す（服・遊び・宿題の順番などを自分で決めさせる）
- ・小さな成功体験を積み重ねる（5分だけ勉強、1ページだけ読む）
- ・家事を任せる（責任感・自立心・協働力が育つ）

4. 他者と関わる経験を増やす（共感性・協働性）

非認知能力は「人との関わり」で最も育ちます。

- ・異年齢の関わり
 - ・家族での協力
 - ・友だちとのトラブルをすぐに解決しない
- 自分と他者の違いを理解し、社会性が育ちます。

5. 好奇心と創造性を刺激する（探究心・創造性）

好奇心は非認知能力のエンジンです。自由に遊べる時間や自然体験を増やす・質問を奪わない → 生徒が「なんで？」と言ったら、すぐ答えず「どう思う？」と返す

みなさんは「スポーツが苦手」「勉強が苦手」「絵や音楽の才能も自分にはない」そう言って自分を否定していませんか？ひと昔前まではこういった才能のある人がすごいと言われていました。確かに素晴らしい才能です。でもそれは今からAIが変わって行く場面が多くなります。だからこそAIが苦手な「非認知能力」が高い人がこれから社会で大切にされます。仕事につくときは必ず面接があります。その時にこの能力を見て会社は雇うかどうかを決めます。だから自分は人に劣っているなどとは考えずに「将来、誰よりも幸せになる可能性がある」と思って日々過ごしてください。（以上が集会で伝えた内容です）

先生たちにも、生徒に接する自分の行動を振り返ってほしいとお願いしました。もしかしたら、生徒が困らないように先回りして動いてない？何も起きないように障害を取り除いてやってない？悩みがあるときに先生が変わって解決してやってない？結果を見ていない？挑戦できる環境をつぶしていない？もしそうなら、ちょっと立ち止まって、生徒の頭をフルに回転させるために答えをちょっと待ってみてください。私自身子どもを育てるときに、先に答えを出して考える時間を奪っていました（こどもが1、2歳のころ靴を一生懸命履こうとしていたら「あー、もう、貸してごらん」と言って私が履かせたことを思い出します。）今、考えると「一番非認知能力が育つ瞬間だったんだなあ」と猛省しています。一番大事なことは、非認知能力は「先生が教えるもの」ではなく「環境で育つもの」ということです。完璧な関わりは必要なく、安心して挑戦できる日常(学校生活)があれば自然と伸びていくので見守っていきましょうと伝えました。